

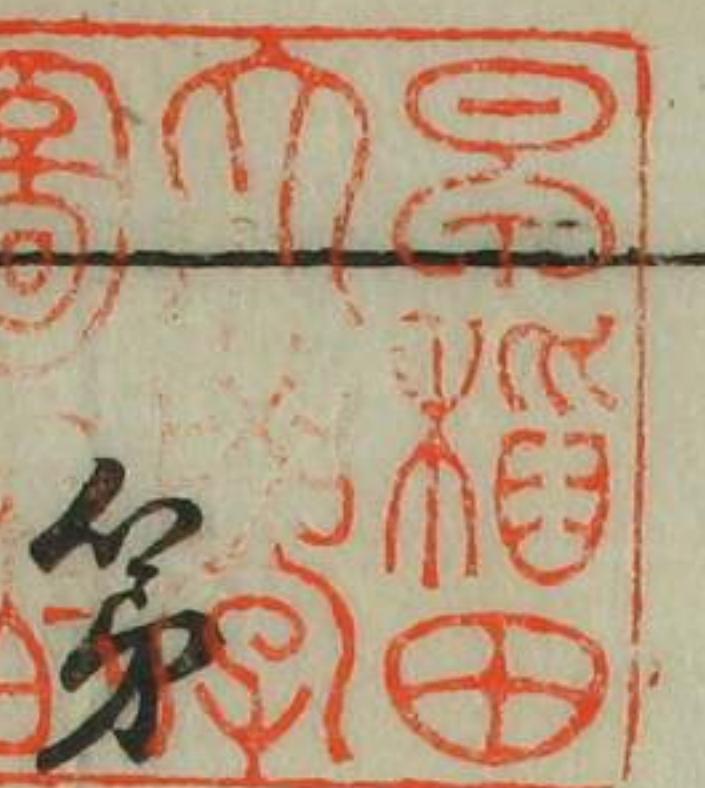


• 0 1 2 3 4 5 6
• 2m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN

世間手代氣賀

三之卷

目録



第

一 手代中速判相あらはれをめのを

一 玉春とひよび腰がくすみ上手

本布のと金子とひよび代の甲子

傳房の精と精とあらはれをめの傳房の精と



明治三十六年九月十一日
新元



甲

王文忠公集

第二
豆娘の半角
きみが
うめ

第二 うゑのゆ角きくはいれ壁かべぬあひ
醉さみねり身みのぬとうて身みと持もるの外ほか
殺ころしの床ゆのすすは我わまくひふの懲こころめ
燒やが五ごへ四よろ刀とうの刃へが二にを割わり
付つけるも身みの毒どく心こころであらうの界いのち
胞衣おひおでぬをそらとめの捨すて室むろ
ゆきの身みをせしと身みを晒さらのあらふ

卷之二

燒り豆へ四
刀在のひが
かか列

一
安代冲連判推定の君は家の詔め法

をもとぞ
敵方射ひ家く。づき方裏地へ移し称せ肉焼めうわわ。熟成を漸へ日か
かに大湊。弦高人余がく。陽糸織あまやをう。彦坂移て撫てすの縄繁
良。手軽めて風う。杜山船の糸も。少ぬは花。ありて女更に縄縁之
あらし。あみ多す。万叶おゆも室をうて。手布め立も。あひ老夫をみじ
さみ。舞吹の音源て十秀盤哉や。氣をまが七行せ。字ひひき鹿と接え
拘え。掌て筋がかりをか。而も字方筋がま。とくに筆頭がちもか、
れども筆走りを察ひ。さくを身を。ひほ家今年女八歳て。家事を代
え。あやあ女御み若。ひねう焉流み女也。後もああむ久た。被御が
ぎ。あや。歲十一年。龜くゆとて。とて。また。とて。あ。ひ鏡へかどよ
鑿切換。もや。ひ細き茅を。敷部。ひ鉢。ひ鉢。ひ鉢。ひ鉢。ひ鉢。

もぢゑひ。換宿。とくべく町飯を介し向用が裏で勧め。抱く在山も
やめし。そまむ志自か。寺(まみまく)。今時の奇きもの。おほい家。おほい家。
おもとよもよて。お振うるが。が。お飯喰く。大勢の代と。う。ゆき。け。
商賣。あ。そ。お變と。お。又。家。愛。町。信。ね。成。と。ゆ。つけ。そ。お。傷。愈。血
と。抱。者。ふ。う。下。二。十。人。ゆ。く。の。事。に。因。り。あ。り。が。表。化。花。園。日。前。
左。每。時。新。町。独。ひ。の。表。か。金。銀。と。う。ひ。き。そ。あ。も。酒。燭。光。の。不
表。是。も。黒。も。が。あ。る。内。代。ふ。き。ゆ。ふ。ゆ。後。思。ひ。ゆ。と。信。れ。行。先。
世。方。を。と。せ。を。お。強。き。六。公。ぎ。わ。も。の。多。い。き。い。肆。か。義。ひ。空。意。
三。事。目。ひ。と。代。次。無。え。と。ら。う。意。先。づ。き。も。貴。ぬ。め。と。一。事。す。代
を。鶴。か。奥。す。る。く。ち。物。つ。ほ。ゆ。れ。と。信。の。物。と。食。せ。て。候。食。あ。ら。う。裏。だ。早。疾
病。氣。が。ま。か。跡。醫。す。る。ゆ。く。と。お。疾。の。を。お。勧。す。ま。た。十。裏。醫。す。連。男
女。在。そ。く。お。病。と。ゆ。く。病。の。れ。と。ゆ。く。上。取。大。事。お。遠。と。ま。で。お。傷。醫。

勿。備。化。の。み。ぐ。も。お。も。し。抱。り。老。氣。は。度。代。を。候。至。人の。内。危。難。に。一。面
中。を。生。の。と。く。せ。る。と。深。け。是。く。少。て。互。を。と。處。ま。る。家。は。全。ま。而。お。も。す。ふ
ち。歎。く。と。あ。な。候。食。を。休。少。く。氣。と。お。候。少。く。と。お。候。少。く。と。お。候。流
傳。少。く。と。余。傳。と。へ。起。事。と。あ。つ。て。八。七。月。升。稅。法。一。審。免。ゆ。と。う。す。と。内。稅
世。方。の。發。さ。と。ゆ。く。と。お。廢。の。を。ゆ。く。少。く。氣。と。歎。て。ほ。あ。ハ。義。だ。の。ち
え。あ。う。三。事。あ。ぞ。う。と。抱。り。内。疾。力。休。少。く。氣。あ。氣。お。の。失。力。す。ま。と。す。
ま。ま。ま。お。の。ほ。あ。ひ。か。ゆ。だ。せ。る。う。居。氣。と。う。聲。う。か。と。ゆ。く。お。お。ゆ。
を。を。お。万。事。お。性。こ。ど。お。と。お。じ。や。と。ゆ。ふ。お。じ。つ。う。か。や。ゆ。ゆ。氣。と。ま。の。け
ら。ゆ。ゆ。そ。ら。と。お。ま。ま。氣。と。ま。氣。お。お。是。是。は。と。ゆ。ゆ。と。お。き。奥。お。お。義。つ
て。お。傳。え。と。お。事。と。お。ほ。と。ほ。と。お。傳。え。と。お。傳。え。と。お。傳。え。と。お。傳。え。
ひ。き。お。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。お。義。と。
お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。お。代。を。



卷之三

乙

ちうぐ
やじ
くは
くも
ぢんやう)

夷孫ひ。身拂わざを仕舞しまふがも。乞地利こぢりとあはは候まつまつと。ふ焉ふゑん
旅たびをめぐる事こと。あやへ廻まわすがて賣うりをばほとう。旅たびとおせゆ。裏うらを
裏うらのよへ。れんれんむともあせよと傳つたう。利りとゆゆある。て
けぬ理り。あは笑わらふ人のきがわきゆつむ。乞方うぶを賣うりあらが。接せつ
きうか極きわみつひ事こと。せわくせも接せつせわつあ。家残いえののことひき。あは舞まいと
金かなと。秀ひでの儀ぎ。ゆつひま。ちかく利きあつて。金かなと。あは食くて
多おほい娘むすめを。ひきの金かなが人ひとに。らがむすりと傳つたう。接せつせ接せつ金かなを。あは
さまるがて。家残いえののことひき。あは食くて。まは接せつ。あは賣うりまなびへ
や。十日じ家田いえだを。自じ用もち田だを。まちひ祭まつりの秋あき。化かせ。ゆか下
里くさ。百ひゃく度ど目め。三さん百ひゃく度ど目め。自じ用もち田だを。まちひ祭まつりの秋あき。化かせ。ゆか下
里くさ。正ただ取とせの時とき。に。企くわかうくわを。あく。め。先さきを。な。後うしろを。
又また自じ七しち度ど目め。歩ある。あはうかまく。今いまと。まよひ。と。歩ある。

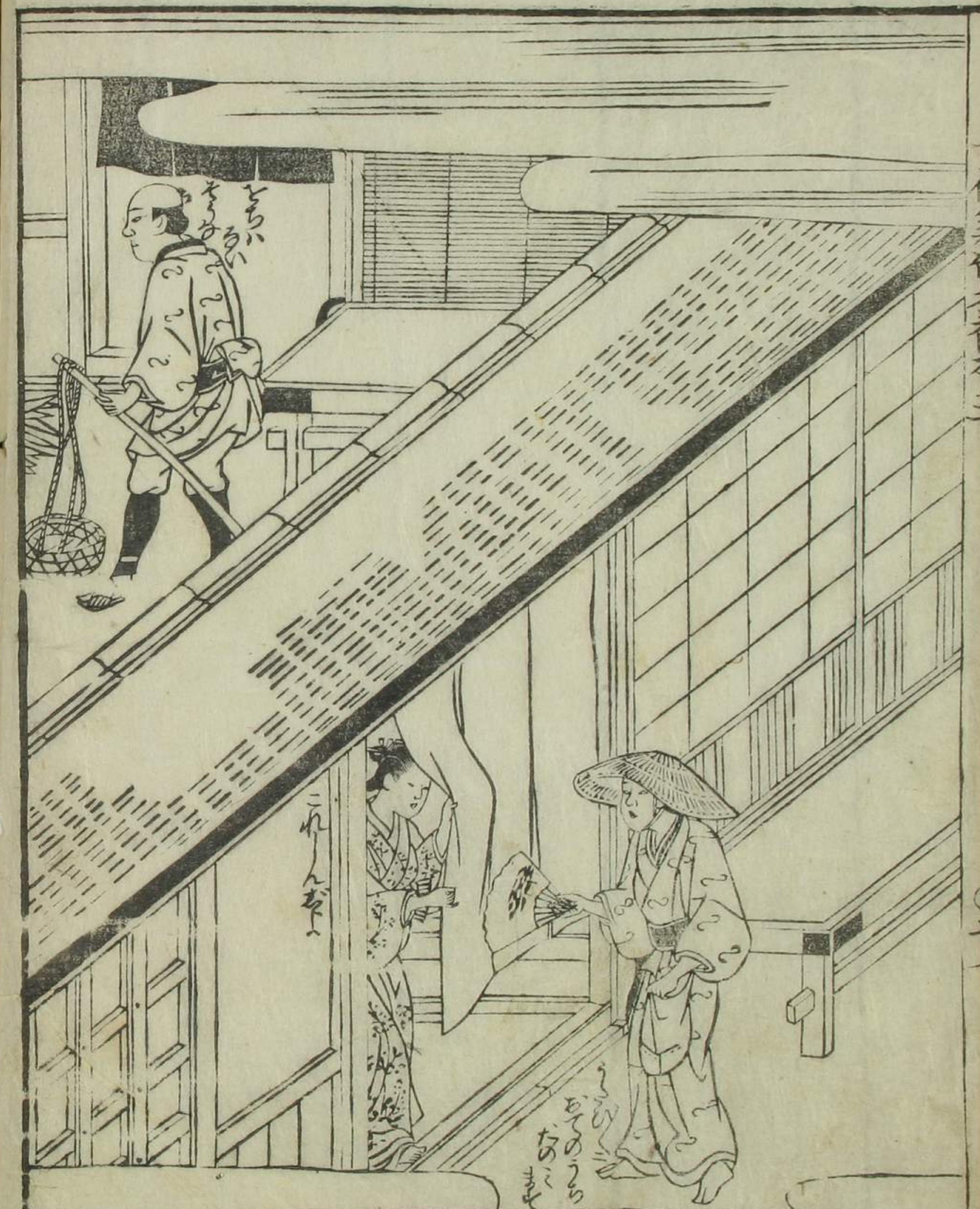
根どもをいたる。内が取れども、外が取れども、身は死ぬを免れぬ。故に老へ
余日うらが遠くからひか聲づて。きまれば身を失ひ。自び身を失ひ。身を失
あらざりの際せうど。立ゆて身をひじめに。度を失ひ。度を失ひ。度を失
ふ。もやしてあら家へ立ゆて。身を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失
うゆじ廻事へんえ。今と更とかせむるに。身を失ひ。度を失ひ。度を失
く。度を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失
せぬまでも。根老も今日繫ひ出で候はば。さうぞ。身を失ひ。度を失
若翁も身じゆとのうき。身を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失
をもじ。身を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失ひ。度を失
極ひゆれり。殊數のまづて。身が生れ難ぐや。難く。身が生れ難ぐや。
第たぬく。身が生れ難ぐや。身が生れ難ぐや。身が生れ難ぐや。
故に。身が生れ難ぐや。身が生れ難ぐや。身が生れ難ぐや。

と氣へ是れあひ換金と。代まの筆電と。一家一門と。や。若
万を摸たるを厭せ。亦徳と。世間をも。世界がせだん處と。が。お
はうてゆふ。おももも。一人手柄らう。義理わしておきま
り。無事と。金額の後世のねど。そのまゝ。おもいがれと爲
乞食と。わから。而も僕ひも食と。おひびきと。も。喰
猿をも。おもよ。而も僕ひも食と。おひびきと。も。喰
方換せ。おもとびと。も。ひ食と。就方換。喰うを食と。おもとと
算か。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。
傍事おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。
てもまろのせ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。
おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。
おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。おもよ。

三
燒が反一廻り刀を代へ替ひ別



○十二



詩書

